

JICA火山・砂防関係集団研修コース 帰国研修員フォローアップ調査報告

藤田久美子*



はじめに

2004年12月6日から12月10日まで、フィリピンにおいて独立行政法人国際協力機構（JICA）による火山・砂防関係集団研修コース帰国研修員に対するフォローアップ調査が実施された。筆者は調査団員として標記調査に参加する機会を得たので、ここに概要を報告する。

1 概要

【案件名】

JICA集団研修「火山学・（火山）砂防工学」
ソフト型フォローアップ調査団（フィリピン）

【目的】

- ソフト防災対策に係る技術セミナーを実施すること。
- 帰国研修員の本邦研修活用状況を調査すること。
- 本邦研修・帰国研修員リソースの更なる発展について意見交換し、提言を取りまとめること。

【調査団員】

濱口博之（総括／火山防災：東北大学名誉教授）

山口真司（砂防：国土交通省 国土技術政策総合研究所 総合技術政策研究センター建設マネジメント技術研究室室長）

山下望（計画／評価：独立行政法人国際協力機構 東京国際センター環境・管理チーム）

藤田久美子（業務調整：財団法人砂防・地すべり技術センター企画部国際課）

【調査期間】

- 2004年12月1日(水)～12月11日(土) (山下、藤田)
- 2004年12月5日(日)～12月11日(土) (濱口、山口)

2 技術セミナーの実施

【参加対象者】

「火山学・火山砂防工学集団研修」又は「火山学・砂防工学集団研修」の受講修了者で、アジア地域在住者

【開催場所】

フィリピン マニラ ケソン市

【参加国・人数（所属先）】

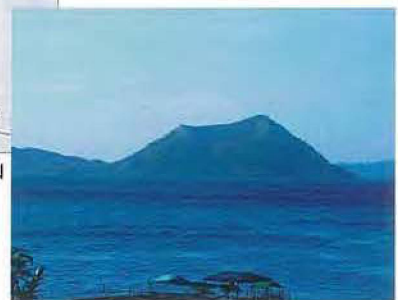
- 中国1名（東北師範大学）
- インドネシア4名（居住地域インフラ省、



ピナツボ火山とタール火山



タール火山



* 元（財）砂防・地すべり技術センター企画部
国際課専門職

火山地質防災局)

- イラン 2名 (農業開発推進省流域管理局)
- ネパール 2名 (鉱山地質局地震センター)
- フィリピン 17名 (地震火山研究所、公共事業道路省)

合計 26名

【日程・内容】

●12月6日(月)

14:00 自己紹介

15:00 基調講演 <火山>

“Lava lake activity and its accompanying disaster at Nyiragongo and Nyamuragira volcanoes in the mid African plate”

東北大学名誉教授 濱口博之

17:00 各国のハザードマップの紹介

●12月7日(火)

ピナツポ火山周辺現場視察

●12月8日(水)

タール火山周辺現場視察

●12月9日(木)

09:00 基調講演 <砂防>

“Approach to utilize hazard maps—through the practice in Japan and Nepal”

「火山学・火山砂防工学」
「火山学・砂防工学集団研修」について

1990年に日本の火山・砂防技術を開発途上国へ移転するため「火山学・火山砂防工学」が開設された。さらに、開発途上国のニーズ、日本側の実施体制を再検討した結果、平成11年度(1999年度)以降は、「火山学・砂防工学」として、毎年研修を継続することとなった。

この研修は、開発途上国に対する日本政府の技術協力計画の一環として実施してきたもので、これらの国々の政府又は関係機関において火山観測及び砂防業務に従事する技術者に対し、講義、実習、見学等を通じ、火山に関連する災害防止のための火山観測ならびに、砂防に関する理論、技術を習得することを目的としてきた。また、この研修を通じてこれら諸国におけるこの分野の技術の向上を図るとともに、日本とこれら諸国との間の友好関係を増進することを目的としてきた。



ピナツポ火山現地視察



タール火山視察事前説明



タール火山までは、小さな船でカルデラ湖を渡るため、全員で水をかぶってしまいました



濱口先生質疑応答



帰国研修員（フィリピン）による、ハザードマップの紹介

国土交通省国土技術政策総合研究所建設マネジメント技術研究室室長 山口真司

13:30～17:00

中国、インドネシア及びイランの帰国研修員代表者による砂防事業、火山観測等に関する報告

●12月10日（金）

09:00～12:00

ネパール及びフィリピンの帰国研修員代表者による砂防事業、火山観測等に関する報告

14:00～17:00 取りまとめセッション

人材育成を通じた組織強化、今後の集団研修に対する提言、帰国研修員ネットワーク構築等について参加者全員で議論し、討議議事録としてとりまとめた。

17:30 閉講式

3 まとめ

このセミナーの目的の一つである、「ソフト防災対策に係る追加的研修」では、日本の派遣メンバーが、近年の世界における火山・砂防の取り組みについて紹介した。

「帰国研修員の本邦研修活用状況調査」は、帰国研修員が日本での研修成果をどのように生かしているかを調査した。これによって、下記のことが確認された。

- この研修の成果がすぐに本国で活かしている事例の

確認。

- JICA技術協力プロジェクトのカウンターパートとして活躍している事例の確認。
- JICA以外の国際的なプロジェクトのカウンターパートとして活躍している事例の確認。
- 個人レベルの人材育成のみならず組織強化に寄与している事例の確認。

また、各国の火山・土砂災害の実態、対策に関する情報のネットワークの必要性が合意形成され、この研修での人脈の重要性が有益であるとされた。

なお、ネットワークに関しては、国際砂防協会が運営している、既存の国際砂防ネットワーク <http://www.sabo-int.org/>（SABO Vol.75参照）が紹介され、21名が会員となった。

さらに、参加者から日本での集団研修に対する改善意見が出されたが、それらの意見は、今後の研修を現地のニーズに合わせてより良いものとする上で有益であると思われる。

4 おわりに

現地滞在中に台風が襲来したため、急な予定変更などもあったが、JICAフィリピン事務所、PHIVOLCS、DPWHの何ヶ月にもおよぶ事前準備と現地でのご支援により、無事調査を終了することができた。誌面を借りて心からお礼申し上げます。